

## <Ready Go JAPAN 須藤むつみ・レースレポート>

\*8月30日・1st race Yanqing Station(UCI C1) : Yanqing County, Beijing, China.

※キャットアイ・ステルス 50 で採取したレースデータはこちらです。

<http://www.cateyeatlas.com/trip/detail/792377/> (キャットアイ・アトラスに公開)

29日の昼に日本出発、北京空港には夜7時に着いた。到着した日本チームのうち何名かを迎えるのバスに、後発組の他国選手も一緒に乗せるため待つ欲しい、ということで待つが飛行機の大幅遅れで空港出たのが夜10時。ホテルに着き就寝したのが遅かったのと足の浮腫みが気になり、翌日の主催者スケジュールにあった万里の長城への観光は断念、部屋でストレッチなど回復に努める。一方で BTB 輸行箱「P236」と今回初めて使用するエコノミーモデル「D237」に入れて運んだバイクは2台とも無傷。安心してバイクを組み立てることが出来た。

午前中の万里の長城ツアーから戻った選手と一緒にレースコースを試走。ホテルから6kmほどの近さなので自走で移動しコース下見。この会場では既に UCI レース開催実績があるため、運営準備は万端な様子。事前に固い路面、ほぼフラットなハイスピードコースと聞いていたがその通り。更にレンガを敷き詰めた散歩コースのような箇所が意外と長く、ロードのような走りとは展開になると仮定し今回、初導入の BOMA エピス R をメインバイクとし、これにタイヤをフロントがシラクマッド、リアをシラクサンドの空気圧 1.9bar にした。あー、シラクサンドをもう一本持ってくればよかった。伊藤とは急な登り下りが連続する区間などのライン取りチェックをおこなう。

試走では1周回、約3.5kmを9分から10分で走ったので、本番は8分台として5周ぐらいと予想。思ったより暑くなかったのでチャンピオンシステムの薄手の長袖ワンピース。OGK カブトの指切りグローブ PRG-4 に、R×L ソックスの五本指ソックス「TBK-750R」を準備した。水分補給は必要に感じたので、グリコ CCD500ml を朝からチビチビ飲み、更にシートチューブ側に OGK カブトのボトルケージ「RC-12R」をつけて、レース中も CCD が補給出来るようにした。本来、シクロクロスではレース中の補給は禁止だが、気温が高い時はコミッセール判断で OK になる。今回は夏期の試合で気温も高めなので2試合とも補給 OK になった。(※注：更に本年より UCI ルール改定により、バイクにボトルを装着した状態でピットにて補給を受け取ることが可能になった)

レース当日は懸念していた雨はなく、程よく曇りで猛烈な暑さはないがレースなら汗が止まらない感じ。朝いちばんにアスリート X のアンダーベースクリームに、日焼け止めの「SPF50」のほうを塗る。この「SPF50」タイプだとひんやりクールな塗り心地なので、今回のように暑いレースには丁度良い。11時にホテルのランチを軽めに摂ってから、RGJ チーム伊藤含め日本チーム全員で自走移動。レースまで1時間近くあったが、久しぶりの海外レース出場の緊張と、初めての会場でアップする場所を上手く見つけられずウロウロ。しかし、その怪しい徘徊のせいか、シクロクロスマガジンから声かけされ急遽取材を受けることに！最初はバイクの紹介だけか、と思ったら英語インタビューまで受けた。いつもチェックしている WEB からの取材に感謝！

レースのスタート 10 分前にコール。自分は昨シーズンに野辺山 UCI レースと全日本選手権で UCI ポイントを保持したからか、8 番目に呼ばれて端ではあるものの最前列！かなりドキドキしながら様子を見ていたら、今回のチーフコミッサーがスタートコールから始まり小まめなフォローをしているのが素晴らしい。

そして女子エリートレースがオンタイムの昼 12 時 30 分に 17 名でスタート、キレイにスタートしたかったが慌ててペダルがハマれないうちに、ほぼ最後尾になってしまう。しかも完全にアップ不足で心拍がうまく上がらない。テクニックで誤魔化し抜き去る箇所もないし、コースがスピーディー過ぎてパワー不足の私は置いていかれるばかり。2 周回目で目前に捉えた選手にも、どんどん離され泣きたくなくなるが完走はしたいので必死に脚を回す。

コントロールラインで周回数が掲示され、予想通りの 5 周で決定した模様。となると 1 周回は 8 分くらいで推移。自分のメーターでは 9 分くらいで周回を重ねていたが、これ以上遅れると完走が危ういので林間部のガタガタなハードオフロード区間は無難にクリアし、レンガのオンロード区間では倍数をかけて凌いだ。何とか 80%の脚切りも間に合いゴール。しかし UCI ポイント対象の 15 位には一つ順位が及ばず 16 位。伊藤はマイナス 1 周回のラップアウトだった。

<周回ラップタイム>

※実は 2 周目にスタートを押す、というミスをしてしまいグチャグチャに。

3 周目・10 : 09

4 周目・10 : 13

5 周目・10 : 15

・・・ということで後半は 9 分台からも落ちていました。無念。

自分のレースが終わったらすぐに男子エリートレースのサポートお手伝いに入る。汗でワンピースジャージがびしょ濡れではあったが CCD のおかげで脱水はなかったので、着替えを素早く済ませスペアホイールを持ってスタート地点へ。今回、日本からは小坂、向山、松本、金子、松尾の 5 名がエントリー。彼らの健闘をピットエリアから見ながら、自分のパワー不足を痛感しつつも、走るラインはまとまっていたのを確認して、彼らの走りを次回レースの対策ヒントにした。

\*9 月 2 日・2nd race Qiongzong Station (UCI C1) : Qiongzong county, Hainan province, China.

※キャットアイ・ステルス 50 で採取したレースデータはこちらです。

<http://www.catyeatlas.com/trip/detail/792376/> (キャットアイ・アトラスに公開)

前レース翌日には、またまた 4 時間かけて北京から海南島に飛行機移動。朝、というか夜中 2 時に主催用意のバスに乗り込み、レース運営メンバーとともに大移動！海口空港に着いた途端にスコールで身動きできない。今回、持ってきた BTB 輸行箱が 1 つはプラスチック製なので雨でも大丈夫だが、エコノミータイプは紙段ボール製なので心配。事前の情報では月の半分は雨という海南島、レース時のコース

コンディションも気になる。海口空港から、更にバスで 2 時間かけてホテルへ。豪華なランチとホテルの作りが竜宮城のよう！しかし、ココはレースのために早めの回復をしたい。BTB 輸行箱は無事にホテルと一緒に到着、ハードな移動に耐えているバイクは今回も無傷！早速 2 台ともセッティングシタご飯前にコースを軽く試走、早めに就寝した。

レース前日の午前中は、海南島の少数民族の村を尋ねる観光ツアーが用意されていた。前晩に休めたこともありツアーに参加し、歓迎の踊りの輪に加わったりして心からリフレッシュ出来た。ツアーから戻りランチを挟んで午後からレースコース試走。今回のコースはホテルの敷地内なので、気軽に試走出来るうえにアップする場所の目処も昨日のうちにつけられた。パラ雨の降る中、伊藤と走行ラインのチェックしながらの試走で 9 分から 10 分なので、晴れたら 6 周、雨なら 5 周か？と予想しノンストップで 5 周、其の後バイクを変えて 1 周回し、今回のレースは北京と変えてエピス、タイヤは、途中の降雨に備えて前後シラクマッドの空気圧 1.8bar に決めて、もう 1 周。明日のことを考えてココで試走終了したが、コースがかなり楽しい！スタートしてスグの急な登りや、途中のクイックなコーナーはラインさえ落ち着いて入ればグリップするし、林間部のシングルはスピードオーバーしないようにコントロールしたほうが早い。ダイナミックなブリッジセクションの下りは、まっすぐ入ってリズムをとればペースもキープ出来そう。あとは良いイメージを保つだけ。

レース当日、天気は薄曇りだが相変わらず蒸し暑い。ウェアは普段は Champion System 製のロード・タイムトライアル (TT) に使用している半袖薄手のワンピース。これは襟ぐりが大きくカットされて開いているので非常に涼しい。ココまで極端な準備をした選手は他にいなかったが、これがとても良かった。伊藤から借りたメントール成分の入った虫除けスプレーに、アスリート X の日焼け止め「SPF50」で暑さ対策は万全。補給には今回もグリコ CCD を 500ml 用意した。

レースは 17 名、またもや最前列の端からオンタイムでスタート。並んだ順番の都合で入りたくなかったインコースからのスタート、しかもドタバタするだろうと予想したスタート直後の登りが終わってスグに目の前で 3 人落車。なかなか立ち上がってリカバリーしないので踏んで前に。その後も北京で早かった選手が、何でも無い箇所ですっ転んだり、落車でメカトラ起こしたり。

1 周回終えて 13 番手とピットから教えてもらい、更に残り周回により 6 週のレースになることが分かった。これならノーミスで最後まで行けば大丈夫、あとはトップ選手のスピードを考えて脚切りのタイミングを注意。

周回を重ねるごとに自分のラップタイムが 8 分 30 秒を切るようになってきた。ということはトップはもっと早くなっている可能性が強い。そしてやはり、残り 2 周回でコントロールラインを通過した後、しばらくしてトップ選手のラスト周回の鐘が鳴った！このペースだと完走が危ういので下りを早めに攻めて、且つグラベル区間は最速ラインを踏みまくった。腰がヤバかったが何とか残り 1 周回の鐘！コントロールで気合いの入れ直しで雄叫びをあげたら盛り上がる地元の観客、その歓声に泣きそうだが堪えてラインを辿り 80%チェックも無事超えて、ゴールが見えた。後ろに選手は誰もいない。待ち構える観

客とレース運営スタッフ、コミッセルたちを確かめながら、出来るだけ大きな声で「謝々！！」と叫んで手をふった。これが私に出来る精一杯の御礼だった。

<周回ラップタイム>

1 周目・8:41

2 周目・8:13

3 周目・8:26

4 周目・8:36

5 周目・8:32

6 周目・8:35

ゴールしてピットスタッフ達と握手し、何とか 13 位完走でもぎ取った UCI ポイント獲得に安堵した。更に伊藤はマイナス 3 ラップながらも 15 位で順位がつき、RGJ チーム 2 人揃って UCI ポイントを獲得することが出来た。

<バイクスペックなど>

バイク・1: BOMA エピス

コンポ: SHIMANO アルテグラ・フロント 46×39、リア 12-34T (クランク 165mm)

タイヤ: F・R ともに IRC シラクチューブレス・マッド

バイク・2: BOMA エピス R (限定カラー)

コンポ: SHIMANO アルテグラ・フロント 46×36、リア 12-27T (クランク 165mm)

タイヤ: F を IRC シラクチューブレス・マッド、R を IRC シラクチューブレス・サンド

ヘルメット: OGK カブト/Zenard (ゼナード) パワーホワイトレッド

グローブ: OGK カブト/PRG-4 (指切りタイプ)

ボトル・バーテープ: OGK カブト

ボトルゲージ: OGK カブト/RC-12R

チェーンオイル: BIOBLEND

サングラス: Rudy project/STRATFLY ※調光度付レンズなど調整はオードビー

バイクジャージ: Champion System/長袖スキンスーツ (バックポケット付)、TT 用スキンスーツ

シューズ: SHIMANO/SH-XC31

ソックス: R×L SOCKS・TBK-750R (五本指ソックス)

サイクルコンピューター: CATEYE/CC-GL50 ステルス 50

サプリ: 江崎グリコ Powerproduction

アスリート用化粧品: AthleteX

輪行箱: BTB 輪行箱/トップモデル P236・エコノミーモデル D237

<Ready Go JAPAN 伊藤 千紘・レースレポート>

\*中国 UCI シクロクロスレース・第1戦

- ・日時 2015年8月30日
- ・会場 Yanqing County, Beijing, China.
- ・コース状況 ドライ・硬めな土と所々舗装路
- ・リザルト 17位 (-1LAP)
- ・ウォームアップ：コース試走一周+コース外で軽く回す
- ・レース目標：完走・UCI ポイント獲得できる15位以内に入る

試走した際に思ったのは、前情報通り平坦基調のスピードコースでパワー差が出やすい。

スタート位置は後部より。一周目は前を走るむつみさんに、なんとか追いつこうと焦るあまり、フライオーバー前でクリートが外れなくなりそのまま落車。

減速していたため、ダメージとしては擦過傷と軽い打撲程度で、すぐに走り出せたが、もう前を走る選手の姿は見えず。追いつこうとするものの、追いつけず-1LAPで降りることになった。

ラインなどは、事前にむつみさんと確認しながら走らせていただいたことが非常に参考になった。だが、自分一人でもその時最善のラインがわかるようにならなくては。

\*中国 UCI シクロクロスレース・第2戦

- ・日時 2015年9月2日
- ・会場 Qiongzong county, Hainan province, China.
- ・コース状況 ドライ・硬めな土
- ・リザルト 15位 (-3LAP)
- ・ウォームアップ：コース試走一周+舗装路往復
- ・レース目標：完走・UCI ポイント獲得できる15位以内に入る

スタート位置は後部。スタート後すぐの登り終わって平坦になる地点で、3人の選手が目の前で落車。道をふさがれてしまい、再スタートするのに時間がかかってしまった。

事前の試走で落車している選手がちらほらいたため（自分自身一度コーナーをオーバースピードで入って一度転んだ）、慎重にコーナー・下りを走る。前を走っている選手がずっと視界に入っていたため、追いつこうと平坦区間等踏める区間で踏み、LAPアウトになる前に何とかパスした。

今回、初の海外への遠征で日本を発つ前非常に不安でしたが、日本チームの方々と、現地の方々の手厚いサポートにより問題等なく走れました。ありがとうございます！また、急なお願いにも関わらず、諸々ご対応いただいた協賛各社様ありがとうございます。

来年、もしまた機会をいただけたら全レースでの完走とUCIポイントの獲得を狙っていきたいです。



**2015 "QIANSEN TROPHY" UCI CYCLO-CROSS**

准 单 位:	国际自行车联盟、国家体育总局	冠名赞助单位:	大连千森体育设施工程有限公司
办 单 位:	中国自行车运动协会	Title Sponsors:	
办 单 位:	北京市体育局、延庆县人民政府	赛事合作伙伴:	
营 单 位:	大连千森体育设施工程有限公司	Event Partners:	
名 誉 助 商:		赛事赞助商:	
		Event Sponsors:	
		赛事供应商:	
		Event Suppliers:	
		媒体合作伙伴:	
		Media Partners:	

APPROVED BY: ... ORGANIZER: ... UNDERTAKER: ... PER A TO ... TLE SPONS: ...



